

6 分娩

分娩は、自然分娩を基本とします。分娩が始まったからといってあせって引っ張ったりせずに、まず胎児の状態を確認します。

極力自然分娩を前提に！
介助は最低限に留めましょう。



写真4 分娩介助の様子
(写真十勝NOSA I 提供)

(1) 分娩の過程

通常分娩では、子宮の収縮（陣痛）が始まり、数時間で第1次破水（胎膜が破れ茶褐色でさらりとした水様な尿水が排出）が起こります。やがて足胞が見え始め、強い陣痛の後、羊膜が破れ第2次破水がおこり、前肢、頭、体、後肢と娩出されます。

分娩後、正常であれば6時間以内に胎盤（後産）が排出されます。

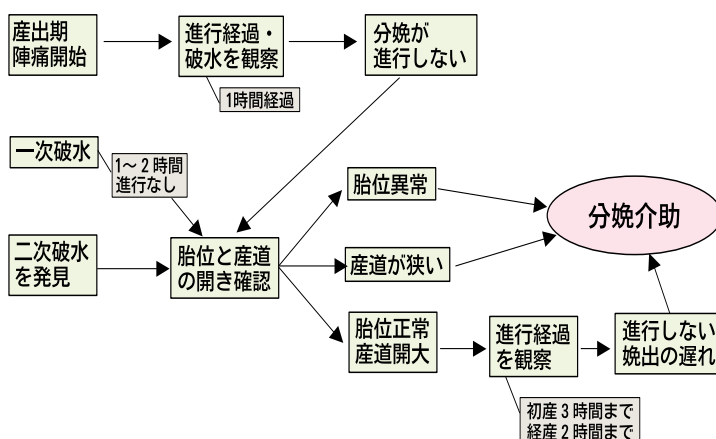


図2 分娩介助基準（平成19年 道立農業試験場）

(2) 分娩時の介助基準（図2）

分娩は、次のように3期に分けて介助や後産の出方のタイミングを見極めます。

ア 分娩1期：1次破水～産道へ

1次破水後1～2時間経過し進行しない場合には、胎位（図3）と産道の開き具合を確認し、胎位異常や産道が狭い場合には分娩の介助をします。

イ 分娩2期：2次破水～分娩

2次破水発見後に膣に手を入れ、逆子など分娩に危険な要素がないかを確認し、初産牛で約3時間、経産牛で約2時間の観察後、介助の有無を判断します。

ウ 分娩3期：分娩後

胎子を娩出した後、半日経っても胎盤が排出されない時には、胎盤停滞の可能性が高いので速やかに獣医師に診察を依頼します。



図3 正常な頭位上胎向（家畜人工授精講習会テキストより）

(3) 分娩場所

牛が安心して安全にお産をするために、分娩場所には以下のことが求められます。

- ・清潔第一（クリーン・ドライ）
- ・敷き料をたっぷり入れる（写真5）
- ・滑らない床面



写真5 敷き料たっぷりで滑らない分娩場